

## 蒲生干潟の植物④⑧



Fig.1 ↑エリアBを南西側から撮影(今回9/10)  
 ↓前回の調査で同じ場所で撮影(8/1)



枯れたハマツナの群落



ヨシ



コマツヨイグサ



メマツヨイグサ



クロマツと周囲の漂着物

Fig.2 エリアBで撮影

Fig.3 エリアAで撮影

Fig.4 エリアDで撮影

Fig.5 エリアFで撮影

Fig.6 エリアFで撮影



イタチハギ

Fig.7 エリアGで撮影

調査日時：2025年9月10日（水）10:20～11:40，天気：くもり

8月18日（月）以降七北田川河口が溜まった砂州によって塞がっている状態が続いていたようである。その影響でちょうど干潮の時間帯であったにも関わらず干潟内は水量が多く潟湖が大きく広がっていた。前回観測したエリアBの潟湖沿いのハマツナ群落はそのほとんどが枯れていた。元々満潮時には水に浸かる範囲であるが、河口が閉塞したために長く浸水し続けた影響だろうか。例年は10～11月に枯れているので今年は明らかに早い。エリアAのヨシの群落には変化は見られない（Fig. 3）。エリアDでは前回の調査同様ハマニンニクやケカモノハシ、ハマニガナなどが多く見られた。前回調査では見られなかったものとして、花を咲かせたコマツヨイグサ（Fig. 4）やメマツヨイグサ（Fig. 5）がエリアD、F、Gの広い範囲で見られた。エリアFのクロマツの周辺にも漂着物（Fig. 6）があり、一時的に浸水した様子があったが周囲の植物相に大きな影響は認められなかった。前回の観測で報告していたイタチハギは目に見えて大きく成長し、枝葉の密度が濃くなっていた（Fig. 7）。

（伊藤勝彦）